

南砺市広聴事業
なんと未来ミーティング(外国人)
運営業務委託 報告書



令和7年9月30日



公益財団法人

南砺幸せ未来基金

1. 事業概要

なんと未来ミーティングは、まちづくり基本条例に基づき「対話による協働のまちづくり」を進めるために、異なる視点や経験を持つ人々とのコミュニケーションを通して相互理解の促進と課題解決に向けて政策への反映を目的として実施するものである。

(1) 背景

南砺市内在住の外国人の方は増加傾向にあるが、生活や文化が異なることによって生じる様々な違いを理解し相互理解を深める場がない。また、日本語の習熟度によっては相談窓口へ来て相談すること自体が困難であり、既存の方法では外国人の方々の生活実態や困りごとなど、現状を十分に把握できている状況とはいえない。

(2) 目的

現状(課題やニーズ)を理解し、どのような支援が必要とされているかを知り、南砺市内在住の外国人を支援する市の施策へ活かすために本事業を実施するものである。

今年度は、日常生活をする上で不便に感じていることなどテーマを絞り、「食べもの」「生活」に絞って広聴することとした。本事業の参加者の声を通じて、今後の市の施策として支援体制や、解決方法の在り方などについて検討するために開催する。

2. 実施概要

外国人のための日本語教室を定期的で開催するボランティアグループ『にほんご広場なんと』の協力を得て、日本語教室に参加されている外国人に加え、日本人(職場や地域など身近なところに外国人がいるという方)にも呼びかけを行い、参加者を募り、現状の把握を行った。

在住外国人の方々の率直な意見を聞くために、参加者の方にとって言葉の壁をできる限り低くするための工夫として、母国語でも話ができてコミュニケーションを取りやすい場づくりを目指し、南砺市内で外国人支援を実施している団体「にほんご広場なんと」のスタッフ(サポーター)と連携し、各テーブルごとに通訳兼話し合い進行役を配置した。



日時: 令和7年8月31日(日) 10時~12時

場所: 福光福祉会館(2階研修室)

テーマ: 食べ物、生活全般(医療・ゴミ・宗教など)

対象者: 南砺市在住の外国人と、外国人が身近にいる日本人

参加者: 外国人参加者: 8名、日本人参加者: 5名、協力: にほんご広場なんとスタッフ: 9名

【参加外国人国籍別: タイ(1名)、ベトナム(2名)、インドネシア(4名)、中国(1名)】

【参加日本人 属性: 外国人労働者を雇用している企業(4名)、家族(1名)】

(1) 当日の流れ

- ① 母国語ごとにグループに分かれて着席。(各テーブルには運営スタッフがつく)
- ② 全体への話題の提供 (南砺へ移住された外国人の方より、日々感じておられる事例や話題提供していただき、参加者の方々が、この後の話し合いで自身の話のイメージをもてるよう工夫した)
- ③ グループごとのミーティング(自己紹介、テーマに沿って)
- ④ 全体発表(各グループから出た意見を共有)

(2) 在住外国人が直面する生活上の課題とニーズ (各テーマごとにグループ内での意見発表・意見交換)

《テーマ1》食べ物(食事・買い物)

(ファシリテーターからの質問)

- ・母国の料理を食べたくなったら(作りたくなったら)どうする?
- ・日本の食品の表記について
- ・日本での買い物について



(タイ)

- 近くのスーパーで買い物をします。
- タイ料理に使うような野菜がない。スパイスがない。
- 日本でも有名なタイ料理(ガパオライスやトムヤムクンなど)の食材はないので、毎日食べることはできません。簡単な料理で済ませています。
- インターネットで買えますが、値段は高いです。
- 業務用スーパーにもすこし売っていますが、パパイヤはなく、ずっと食べていません。
- タイ料理店へ行ってみたが、地元の味とは違っていた。
- アレルギーはありませんが、納豆は食べられません。
- 食事のイベントなどでタイ料理できる人を集めると、ネットワークができるかもしれません。

(ベトナム)

- 食事制限はありません。アレルギーもありません。
- 買い物をするときは、価格の安いもの、賞味期限、栄養のバランスを考えます。
- ベトナムの食材はインターネットで注文したり、富山や高岡まで買いに行ったりしています。
- (母国の食べ物は)絶対ではないけれど、食べたいと思うこともあるので、月に1度は買いに行きます。
- スーパーでの買い物は、調味料に困ります。
- 野菜の種類が少なく、パクチーなどはありません。
- 日本の米は値段が高いです。古米も食べています。
- 納豆は食べたことがないです。匂いが気になり食べにくいです。ひきわり納豆だといいかも。
- あまり混ぜずに食べます。納豆は、1歳の子どもは食べるが、小1の子どもは食べません。(小さい頃に食べたもので決まるのかも)
- お醤油が苦手です。(お刺身を食べるときだけ食べます)家族(妻や子ども)は大丈夫です。

(インドネシア)

- 南砺市内はハラール食品がなく、砺波まで行ってまとめ買いをします。(1、2カ月に1度くらい)
- 買い物は基本的には一人で行きます。(二人で行くこともあります)
- インターネットでの通販もあります。みんなでまとめてたくさん買います。
- インドネシア食材は買えます。あまり困らないけれども、値段が高い。
- 油とみりん、米ともち米を間違えるなど、買い物で困ることが多い。
- 辛いものを食べないと、元気が出ません。(辛さのレベルが日本人とは違うので困る)
- 移動販売のハラール食品店が月に1回程度、金沢から近くまで来る。事前注文しなくても現物を見て買えるが、品物が売り切れていて買えないこともある。
- 日常は自転車で移動します。電車で行くことは少ないです。(両手にたくさんの荷物をもって駅まで歩き、電車に乗って、駅から家まで歩いて帰るのは大変だからです)
- 日本は豚肉が多いので、豚肉やアルコールが入っていないものを探すのが大変です。(調味料や加工品の中に入っていることもあるので、買う時に裏面のラベルを確認します)
※イスラム教の戒律があり、豚肉やアルコールは避けないといけない。
→大丈夫だと自信があれば見なくても買います。怪しければラベルを見ます。
→最近ではアプリで見ると翻訳もしてくれるが、そのままでは難しいこともある。
- イスラム教徒でも、戒律を厳格に守る人と守らない人がいる。(ハラールマークがないと食べない人もいるし、マークがなくても食べる人もいる)⇒人による。
- お菓子とか食べている時に、「みりん」(アルコール)が入っていることに気づいたら食べるのをやめます。
- 以前、食べたらダメなものリストをインドネシアの日本語の先生に見てもらった。日本は豚肉が多いのは知っていた。とんこつラーメンは食べられない。
- 都会にはハラールのラーメンがあると聞いた。インドネシアにいる時からラーメンは食べてみたかったけど食べられない。
- 宗教や文化の違いで、食べられないものは多い。
- お店でラーメンのチャーシュー抜いてもらうこともある。代わりにと別のものが乗るとか100円引きくらいになればいいが、大体は値段そのまま減らされるだけのことが多くて、少し残念です。
- 米の値段が高いため、1日3食から2食に減らした。(断食に慣れているので、1日2食でも苦痛ではない)お菓子を食えることが多い。
- 朝食は食べないことが多い。
- 医者に「朝食を食べた方がいい」と言われて食べるようになりました。
- 断食の期間の過ごし方は、会社によります。前いた会社では「倒れたら困るから食べろ」と言われましたが、自分の考えは逆です。断食をすると神様のパワーをもらえるので、元気になるのです。



(中国)

- スーパーで食材や調味料はいつでも買えます。
- 宗教的に食べ物の制限はありません。
- アレルギーはなく、何でも食べられる。(※生で食べる習慣はあまりないので、なまものは少し苦手です)
- 日本の豚肉は、中国とは味が違うので食べられません。
- 鶏肉を食べることが多いです。
- ラム肉は、日本のスーパーにあまり売っていません。
- よく食べるのは肉と野菜です。あまり魚は食べません。
(中国は川魚を食べるのですが、日本は海魚が多いからです)
- 食べられない時は、その時にきちんと断ることができます。

《テーマ2》 生活全般

(ファシリテーターからの質問) こんな場面ではどうですか? どんなことをお話しされても OK ですよ。

- ・病院の受付、お医者さんとのやりとり、薬局での薬の受け取り、
- ・会社の人と話するとき
- ・書類を読むとき
- ・お祭り、伝統文化、宗教について

南砺での生活

(タイ)

- 会社から寮が遠く、雨の日が大変。雪の日が心配。
- 会社の近くのアパートは高いので、引っ越せません。
- フリーWi-Fiがない。あっても15分と短いため、手続きなどの翻訳が最後までできず、不便だと感じる。(※1)

(ベトナム)

- 市役所にフリーWi-Fiがあると便利。(※1)
- アパート探し大変だったけど、何とかあった。
- 学校からのお便りは、翻訳アプリを使ってみるが、意味がわからない時がある。
- お知らせがわからない。文書が来てもわからない。

(インドネシア)

- 日常は自転車で移動するが、荷物が多いと大変。
- フリーWi-Fiがあることは重要です。(※1)

(中国)

- アパートの他の部屋の騒音問題が少し気になるけど、その国の文化だと思って尊重している。(それでも困ったら管理者の方に伝えようとは思っています。)

補足 ※1 多くの方が、(費用で高額であるため)日本の携帯電話会社との契約をしない「Wi-Fi モデル」を使用している。情報収集に欠かせないスマートフォンを利用するためにはWi-Fi環境でしか使用できず、15分という限られた時間では不便を感じている、ということでした。



ゴミ

(タイ)

- プラスチックは1カ月に1日しか出せない。(前に住んでいたところはいつでも出せた)
- 自転車なので、ゴミを持っていくことも大変。
- スーパーで、ゴミ袋がどこに売っているのか見つけにくい。
- ゴミの分別が細かい。

(ベトナム)

- ゴミ出しのスケジュールはわかる。ゴミ集積所に貼ってある。
- ベトナムの人は、ゴミの仕分けあまりしない。(習慣として、ない)
- 年末年始のゴミのスケジュール変更があったり、色のついたビンなどの出し方など、日本語がわからないとやる気がしない。
- ゴミの分別が難しく、部屋の中に壊れたもの(機械)が溜まっている。

(インドネシア)

- 燃えないゴミの分別はわかりにくく難しい。
(モバイルバッテリーや家電はどうすればいいのかなど)
- ゴミの分別は慣れてきたが、ビンや缶は買わないようにしている。
- 会社の方に聞きすぎると申し訳ないと思ってしまう。

(中国)

- 分別は説明がわかりやすいので大丈夫です。
- 自分は中国人なので漢字には馴染みがあるので、自分で読んで理解ができます。



医療

(タイ)

- 病院での待ち時間が長いです。
- 医者が英語で話してくれるとわかりました。(英語の方が日本語よりは得意です)
- 強い薬は病院でしかもらえない。タイでは強い薬も市販している。
- 帰国したときに買って、日本に持ってきている。
- タイでは日中でも夜間でもいつでも病院に行けるし、予約もいらない。
- 南砺では、まだ行ったこともない。
- 日本の薬は弱い。

(ベトナム)

- 病院で先生の話がわからない。(日本語の壁を感じる)
- 友達や先輩に通訳してもらおう。
自分たちはなんとか先輩などの通訳がいるからよかった。
- 専門的な言葉や病気の名前がわからない。後で自分で調べる。
- 家に帰ってから調べる。紙でもらえば Google 翻訳で調べる。
- 予防接種はわかるようになった。

(インドネシア)

- 带状疱疹で病院へ行った。(会社の人に連れて行ってもらった)
1 回目は一緒に、2 回目は 1 人で行った。
1 回目はいろいろ紙に書いた資料をもらって家でも読むことができた。日本語だけど家で翻訳したらわかった。2 回目は 1 人で行ったので、自分の言いたいことが先生になかなか伝わらなかった。わかってもらえなくて辛かった。
- 薬は薬局でもらった。

(中国)

- 外国の方に理解のある病院にかかった。
- 薬を受け取る時は、薬局の人が丁寧に説明してくれた。
- 日本の薬は高い。大きな手術は、日本の方が安い。
- マイナンバーカードで保険証としても使える。



宗教・文化

(インドネシア)

- (お祈りは 1 日 5 回あるので) お昼時間や現場でします。
- 自分は、会社の中では、一日一回お祈りをしている。
- 会社にお祈りの場所 (畳の部屋) を作ってもらった。
- きれいな場所 (汚くないゴミがない場所) であれば、狭くてもいい。
- 現場の誰もいないところを使っている。
- 食品なの会社なので、服を脱ぐとか大変だからゴミ袋とかを敷いてやっています。
- 1 番大切なのは、メッカの方向に向かってやることです。
- 会社ではしないで家の中だけでやっている人もいます。
- (断食に関して) 毎年時期が違う。水も飲んだらダメ。無理ならやめてもいい体が大事。
他の日と交代してもいいイスラムのルールもある。月曜日にできなかつた場合は、次の月曜日と交代してもいい。⇒小さい時からやっているから慣れている。
- 豚肉やアルコールを避けるなど、買い物では原材料を確認している。
- 断食期間中は水も飲まないが、無理な場合はやめてもよい。
- 会社の人たちは宗教や文化の違いを既に理解している。

会社や人間関係

(タイ)

- 職場では、仕事にあまり話をしません。みんなあまり話をしません。日本人同士もそうです。
(外国人同士も同じグループじゃないのと話す事はありません)
- 昼食は食堂でひとりで食べたりすることが多く、寂しい。(たまに休憩時間に話すこともあります)
- 会社の人と話す事はありません。(挨拶はします)
- 日本人同士もあまり話をしない。お昼は食堂や車の中でみんなバラバラに食べる。
- お昼時間、休憩室で寝ている人もいるので話せません。
- 会社の飲み会は新年会があるそうです。自分は4月から来ているので、まだ参加した事はありません。
- 友達がおらず、遊べる人がいない。
- タイ語を話したい。
- タイからお嫁に来た人がやっているお店があると聞きました。トムヤムクンをイベントで出していることもあるそうです。

(ベトナム)

- 土日は仕事のため、「にほんご広場なんど」に参加することができない。

(インドネシア)

- 困ったことがあったら会社の人に相談する。会社では困る事はあまりありません。
(1ヵ月に1回面談がある)
- 会社の人なら、人となり分かるので相談しやすいです。(人によります)
- 会社の人とコミュニケーションをとることで解決できる問題があると思います。
- 実家に仕送りをしています。

(中国)

- 困ったことがあったら、会社の方が手続きをしてくれる。
- 保険の手続きとかは、会社の方がやってくれている。

地域・行政との関わり

(タイ)

- 近所の人と話ることがない。
- なんバスは時間がかかるので、使えません。

(ベトナム)

- 日本の窓口手続きは早い、入園手続きも早かった。
- 市役所のフリーWi-Fiが欲しい。
- 土日が仕事なので、にほんご広場には来れません。

(インドネシア)

- 市役所(城端)の窓口の方が優しく助かった。(マイナンバーカードを作る時も何を書けばいいのか、丁寧に教えてくれた)
- 広報誌(広報なんど)をもらえる方が良い。見たいし知りたい。(もらえている人もいない人もいます)



- 防災訓練とか予定したり、ゴミカレンダーも貼ってあるのを見ている。
- 行政には行きにくいです。
- 何かあれば、まず会社の人に相談します。(会社の方から、行政に聞いてくれることが多い)
- 「外国人だから」と決めつけられたりするのは困る。そういうふうにみられるのは悲しい。
- 何かあっても、地域の人に聞くことはないです。(会社の人に聞くことが多い)
- 南砺市は外国人を受け入れていかないと、と思う。コミュニケーションをして、理解しあえるようになっていけたらいい。

(中国)

- アパートの人とは顔は合わせる事は無い。誰が住んでいるか知らない。
- 東京にいた頃の友人がいる。
- 南砺には付き合いのある人はいないけれど、1人の方が好きなので問題は無い。

その他

(ベトナム)

- アプリについて、日本人も理解が低い。
- 翻訳ソフトも使うには慣れが必要。

(インドネシア)

- アプリは便利だが、どのような契約で使えるか限られる
- このようなミーティングは2回目の参加です。去年も参加しました。
- 今年は、会社の方も来て、聞いてくれたことで解決方法も見つかりました。
- たくさん外国人が来てくれるともっと意見が出ると思います。参加者が増えるといいと思います。

(日本人の意見) 地域との関わり

- 「ゆいネット」や回覧板を活用する必要があると思う。地域の方も考えていかなければならないと思う。
- 日常的に「おはようございます」「こんにちは」と挨拶を交わし、顔見知りの関係を築くことが大切。
- 災害時などには外国人のことを気にかけてもらいたい。
- 外国人の方の素直な意見を聞くことができてよかったです。
- これからますます外国人の方が多くなると思う。未来を考えていけるよう参加しました。
- 「日本はこう」「日本は・・・」と日本の文化を押し付けすぎているか。それぞれの国の文化を尊重し理解する必要がある。
- 積極的に声をかけることで、外国人とコミュニケーションがとれるようになる。

(3) メディア掲載

2025年9月1日 富山新聞



2025年9月5日 北日本新聞



(4) 事業を終えて

南砺市内に住む外国人、外国人を雇用する事業者、「にほんご広場なんと」のスタッフら併せて約20人の参加者で開催しました。外国人参加者からは、「母国料理を食べたいが、身近なスーパーには材料も調味料もなく我慢することが多い」、「宗教上、食べられない食材があるため、買い物の際には商品の原材料を確かめて購入している」、「日本語の壁があり、病院の診察の際や、学校のからのお便りなど、理解するのに時間を要する」、「外国人という偏見を持たれないために、すすんで挨拶するよう心掛けている」などの現状を聞くことができました。

.....

今年は初めて対象者を、市内在住の外国人だけでなく、外国人が身近におられる方々にも広げたことで、市内事業者（外国人を雇用されている企業の担当者）や、家族が外国人の方など一般市民の方の参加があり、意義深い取り組みとなりました。実際に外国人参加者の方から「企業の方がこのミーティングに参加してくれることで、解決方法が分かった。もっとたくさんの方にこの場に来て意見を出してほしい、自分たちのことを聞いてほしい」という切実な声も聴くことができました。一方で、近所の住人などの参加も想定していましたが、地域の方の参加はみられず、地域の一員としての「外国人の存在」は、まだまだ認知が希薄であるという実態が浮き彫りになりました。

また、外国人の多くの方が、困りごとがあっても、地域にも行政にも頼れないと感じていることがわかりました。外国人の方の対応を雇用先企業（事業主の方々）の責任だけに任せている現状が続く限り、外国人の方から、地域の中に自分から入っていく事は難しいと言わざるを得ません。

このような状況において、不測の事態や災害が発生するなどの状況においては、災害支援等が機能しないことも懸念されるため、改善を要すものと考えられます。（能登震災のように休日に発災した場合、避難行動をとることさえ難しい）

.....

3. なんと未来ミーティングをまちづくりへ活かすために

南砺市をともにつくる「多文化共生社会」(※)実現へ

人口減少という避けられない課題に直面する南砺市にとって、外国人住民の方々への施策は、地域の未来を支える心強い「投資」です。外国人の方々は、単なる労働力の担い手ではなく、地域社会をともにつくる大切な「住民」であると考え、彼らが安心して暮らせる多文化共生社会を築くことは、南砺市全体の活力を高め、「誰ひとり取り残さない」温かい地域を次世代に引き継ぐために必要な一歩です。この重要な転換期に、具体的な行動を始めていただきたいと思います。

○現状の共有と前進への課題

少子高齢化が急速に進む中で、産業だけでなく、地域で長年培われてきた様々な活動や役割の維持が難しくなっています。こうした状況で、外国人の方々が、ともに地域の一員であり「住民」であれば、地域を支える貴重な力ともなり得ます。「労働者」から「地域をともに支える住民」へと変わっていく可能性は、南砺市の未来を大きく左右します。しかし残念ながら現在、南砺市で暮らす多くの外国人住民の方が地域とのつながりを持っていません。

「広報が難しくて分かりにくい」「市役所に相談しづらい」という声は、行政側の情報提供やサポート体制に、まだ改善の余地があることを示しています。孤立を防ぎ、皆が安心できる地域をつくるため、具体的な対策が必要です。

○外国人住民とともに創る南砺の未来 具体的な行動提案

外国人住民の方々の目線に立ち、全ての住民が安全で快適に暮らせるために

① 心が届く「分かりやすい情報」への工夫

情報が理解できないことは、不安と孤立に直結します。市役所から発信される全ての広報物や生活に関する文書は、行政の皆様が「やさしい日本語」という具体的な手法を用いて作成することを心がけてください。難しい専門用語を避け、分かりやすい言葉を選ぶ工夫は、外国人の方だけでなく、高齢の方や手続きに慣れていない市民の方にとっても大きな安心につながります。さらに、多くの外国人住民が使用する言語での翻訳や多言語対応も、できることから確実に進めてください。

② 地域の仲間として迎え入れる温かい工夫

外国人住民の方々が地域に溶け込み、南砺地域の一員として安心して暮らすためには、人と人と自然な接点やつながりを増やすことが大切です。外国人を雇用する企業と地域の自治会や、地域づくり協議会が協力し合える仕組みづくりが必要です。例えば、地域の清掃活動や伝統的なお祭りなどに企業を通じて外国人住民の方々を積極的にご招待し、地域住民が彼らを「新しい隣人」として迎え入れる温かい機会をつくることなど。

市民全体で「多文化共生」の意識を育むため、行政職員、地域リーダー、市民を対象とした「やさしい日本語」や異文化理解に関する研修も有効であると考えます。それらの取り組みによって、市民ひとりひとりの意識が変わり、行動に現れることが、温かい地域づくりの最も確かな土台となります。

③ 施策を「希望への投資」として位置づけ

外国人住民への取り組みは、将来的に南砺市へ移住・定住につながる、非常に大きな可能性を秘めています。彼らが南砺市を「労働する場所」としてだけでなく、「安心して暮らせる故郷」だと感じられるように環境を整えることは、人口減少時代における「希望への投資」だと思います。

これらの具体的な取り組みを、それぞれの立場で（行政として、地域として、企業として、個人として）実行することで、南砺市は多様な人々が互いを尊重し、ともに地域を支え合う、より豊かで温かい未来社会をつくることができると考えています。

※多文化共生社会とは、外国人の方のみならず、多様な年代・性別の方々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し合い、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会のこと